



八日市まちづくり協だより

第68号
令和5年8月発行

9月は防災月間です

いつ起こるか分からない、台風や地震などの自然災害。特に台風が多く上陸する、9月は「防災月間」として定められています。《災害に備える準備月間》として、家庭でできることをみんなで考えてみましょう。

防災プロジェクトでは、地域の皆様から「我が家の防災対策」を募集しました。30件を超える多くの応募をいただきました。これらの素晴らしい取り組みを共有します。

我が家の防災対策のまとめ

○家具などの転倒対策：地震などの災害時における家具や家電の転倒を防止するために、家具の固定や耐震製品の導入。転倒しにくい工夫が見られました。

○災害備蓄の充実：家族が食料や水を十分に備蓄し、非常用品の点検や消耗品の交換を定期的に行っている。また非常持ち出し袋を玄関先や車のトランクに置くなど実践されておられます。

○家族の連絡体制：家族全員が災害時の連絡方法を確認し合い、避難場所や避難経路を共有し、円滑な情報伝達を心掛けておられます。

防災対策を無理なく実施できるよう、特別な訓練や計画だけでなく、日常生活の中でできることから始めましょう。家族で話し合って避難経路を確認するだけでも大きな一歩です。災害備蓄は少しずつ増やしていくことも効果的です。

今回は事例の一端をご紹介します。災害が起こった時に、自分や家族を守るためには、事前に備えをしておくことが重要です。防災月間では防災意識を高めて、備えを見直す機会としてはどうでしょうか。

松村栄士

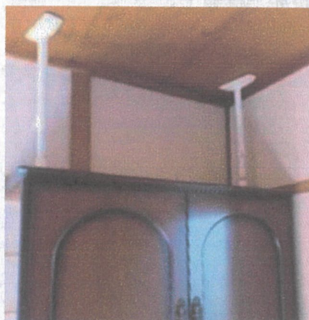


備蓄品



プロジェクト紹介

八日市地区まちづくり協議会防災プロジェクトでは、地震、風・水害、火災などによる大規模災害に強い地域づくりを喫緊の課題としています。安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、八日市地区の防災ネットワークの拠点（情報交換の場）として発信・活動しています。



家具転倒防止



玄関に持ち出し袋

令和5年度

開催!

「八日市地区人権のミニ講座」

7月8日(土)午後、コミセンホールで「八日市地区人権のミニ講座」を開催しましたところ、約70名の参加がありました。

人権についてともに考え、人権尊重の輪がさらに広がっていくことを願い、今回は甲賀市在住で人権コンサートや地域イベント、小中学校の音楽会にも多数出演されているユニット「ケール」をお迎えし、人権コンサートを行いました。

「歌詞にみる、その時代の背景と人権」と題し、二胡とギターと癒しのコーラスで、



お馴染みの曲を中心に演奏していただきました。

90分の演奏と人権に対する身近なお話があり、ユニット名「ケール」の名のとおり、健康や体に良い演奏で、来場された皆さんの「心のサプリメント」になりました。

梅雨空の合間、音楽で心癒される時間を過ごしながら、人権に対する新たな気づきの場所になったかと思います。

八日市地区人権のまちづくり協議会

会長 野瀬信弘

聖徳まつり

夏の夜にみんなで総おどり

7月22日に行われた聖徳まつりの総踊りに、八日市まち協連で参加しました。始めは20人ほどでしたが、ふと見ると子どもさんや一般の方々も加わって40人ぐらいになっていました。皆さん、ありがとうございました。



4年ぶりの開催！

玉水稻荷夏祭り



7月16日に浜野正和会主催の玉水稻荷夏祭りが、浜野会館前駐車場で開催されました。

県下でもトップを切って江州音頭の踊りが行われ、3代目真鍮家文好さん一行による音頭と江州音頭保存会及び地域住民による踊りが一体となり、夏の夜のひと時を楽しみました。

会場には360本用意されたうちわが出尽くしてしまう人出で、正和会員によるかき氷、綿菓子、

ヨーヨーつりの屋台もあり、子どもたちも大喜びでした。

最後には豪華景品が当たる大抽選会があり、当選番号が発表されるたびに歓声がわき上がりました。

新型コロナのために3年間中止が続き、4年振りの開催でしたが、参加者一同汗だくになりながらも実施できた喜びをかみしめていました。

浦根悦夫

東近江市一帯では、毎年恒例の「二五八祭」と呼ばれる秋祭りが開催される。これは昔から「二」、「五」、「八」のつく日に定期市が開かれたことに基づく。もっとも、初めから全ての「二」、「五」、「八」の日が市日だった訳ではない。限定的な市日が、市の発展、拡大に伴い増やされたのである。

・「八」(8、18、28)

平安時代、伝教大師最澄が太郎坊山の麓に開基した天台宗成願寺は、近江守護佐々木氏の庇護のもと盛時には60余坊を有する大寺院であった。しかし、織田信長の上洛時の戦火によりほとんど焼失し、今では行満坊と石垣坊の二坊を残すのみである。成願寺の本尊は薬師如来で、その縁日のあたる毎月八日には、八日市の地名の由来となった八日市庭(いちば)が、門前町の小脇町宿(しゅく)で開かれた。その後、八日市庭は小脇町宿から八日市中心部の八風街

道と御代参街道との交差点付近へ移った。

あ・「二」(2、8、12、18、22、28)
れ 室町時代、本来仏教用語で月に6回善行を為
や すべき六斎日(ろくさいにち)に因み、月に6回
こ 開かれた六斎市に基づいて、市日は「二」、「八」
れ となった。

や・「五」(2、5、8、12、15、18、22、25、28)

明治4年の八日市焼けと呼ぶ大火により、八日市村、浜野村は大打撃を受けたが、復興は早く、明治14年には好調市場環境の中、従来の「二、八」に「五」を加えることになったが、取扱い品目等で紛糾し、決定は明治21年まで持ち越された。あたかも翌22年の八日市町の誕生に合わせるかの様に。

二五八の巻 既得権益がぶつかる古い体質の中、変化も誕生する。明治42年から毎年7月から9月の3ヶ月間、「一」、「六」の日に夜市を開催する変化である。

森野吉雄さん

近江酒造 106 年の歴史に幕

金屋通り上之町の信号を永源寺方面に少し行った所の近江酒造さんが、令和 5 年 6 月 30 日に酒造りの幕を下ろされました。1917 年（大正 6 年）の創業から 106 年、この地で日本酒造りをされてきました。

敷地内には造り酒屋特有の大きな酒蔵や志賀盛の看板が掲げられた背の高い建物、煙突などが立ち並んでいました。八日市に軍隊の飛行場があった時には航空隊の御用達でした。

志賀盛の看板が掲げられた背の高い建物は、芋焼酎を造っていた時に使っていた蒸留所で、その後は、お酒の販売などに利用されていました。



造りに必要な設備でした。

大きな蔵の中では日本酒造りをされていた。遠くからもよく見えた煙突はボイラーの排煙設備で、酒米を蒸したり瓶詰めなどに使うお湯を沸かししたりと酒

酒蔵のある敷地は「びわこジャズ東近江」でステージとしても利用され、八日市の街をいろどる風景の一部でした。無くなるのは寂しいですが、住宅地として新しい街並みになるそうです。

山下勝司



近江鉄道を走っていた電気機関車 ED314 周辺は小公園になり、機関車は保存される予定です。

片言隻句

残暑お見舞い申し上げます。皆さん、いかがお過ごしですか。浜野総自治会では、4年ぶりに夏祭りが復活しました。夜店や江州音頭、抽選会など盛りだくさんの企画で、多くの方々が夏の一夜を満喫されたことと思います。

夏に限らず、我が家の玄関先では、時折り芳しい香りが漂ってきます。香りの先を見ると、ご近所のどなたかが、我が家の隣に祀られているお地蔵さんに線香や花、水などを手向け、熱心にお参りをされているのです。当番制かと思えるほどたびたび目にする朝の光景です。そういう習慣のない私にとっては、とても感慨深く感じる瞬間です。

今年ももうすぐ地蔵盆へと季節は移ります。そこでもテントが張られ、子どもたちの元気な声や、大人の方々の詠歌が聞こえてきます。普段は傍観している私ですが、この時ぐらいいはと毎年心ばかりのお供えをし、孫たちを含めて地域の安全を祈念して、お地蔵さんに手を合わせています。

地蔵盆が済んでも、もうしばらく暑さが続くでしょう。皆さん、お体をご自愛いただき今夏も乗り切ってくださいね。

角江幸代



編集
発行

八日市地区まちづくり協議会 八日市コミュニティセンター内
IP電話 050-8034-1141 電話・FAX 23-4120
E-mail 8comi920@e-omi.ne.jp

